

(トップページ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/>)

(中東 VIP 劇場シリーズ: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/VIPtheatre.html>)

(サウジアラビア: <http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/SaudiArabia.html>)

マイライブラリー:0232

(注)本稿は 2012 年 7 月 3 日、10 日、17 日の 3 回にわたり「アラビア半島定点観測」に掲載したレポートをまとめたものです。

2012.7.18
前田 高行

中東 VIP 劇場サウジアラビア篇:タナボタで皇太子になったサルマン王子

目次	頁
1. わずか8カ月で皇太子交替	1
2. サルマンの権勢とその限界	3
3. 叔父と甥の暗闘の幕開けか?	4

1. わずか8カ月で皇太子交替



(写真は新皇太子に即位したサルマン国防相)

先月(6月)18日、サウジアラビアのアブダッラー国王は新しい皇太子にサルマン国防相を指名した。2日前にジュネーブで死去したナイフ皇太子(内相兼務)の後釜である。実はナイフ自身、昨年10月に当時の皇太子スルタン(国防相兼務)が死去したことに伴い内相兼務のまま皇太子になったばかりであった。この時リヤド州知事であったサルマン王子が国防相の地位を引き継いだ。ナイフ内相は皇太子在任期間わずか8カ月で亡くなり、今回後任としてサルマン王子が国防相兼務のまま皇太子に即位することになったのである。

ここに名を挙げた4人の王族(アブダッラー、スルタン、ナイフ及びサルマン)はいずれも初代国王の子息であり、そのうちスルタン、ナイフ、サルマンの3人は故ステイリ王妃を母親とする同母の兄弟である。ステイリ妃は7人の王子を生み、息子達は俗に「ステイリ・セブン(ステイリ7人兄弟)」と呼ばれている。長男が故ファハド前国王であり、スルタン、ナイフは次男、三男、そしてサルマンは6男である。末子の7男アハマドは今回の人事で内務省副大臣から大臣に昇格している。それぞれの生年はアブダッラーが1923年(現在89歳)、スルタン1931年(享年80歳)、ナイフ1933年(享年79歳)、サルマン1936年(現在76歳)であり、アハマドは1940年生まれの72歳である(なおアブダッラー及びスルタンの生年については諸説ある)。

* サウド家系図「アブドゥルアジズ初代国王の王妃とその子息たち」参照。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/3-1-3bSonsOfAbdulazizByWife.pdf>

わずか8カ月の間に皇太子がスルタンからナイフ、さらにサルマンへと入れ替わり、しかも彼らが同母の兄弟であることに世間は一様に驚くとともにステイリ兄弟の勢力の強さを見せつけられた思いであった。しかし世間が何より驚いたのはサルマンがあれよあれよと言う間に NO.2の皇太子の座に上り詰めたことであろう。その意味ではサルマンは「シンデレラ・ボーイ」である(彼を「ボーイ」と呼ぶには歳を取り過ぎているが、アブダッラー、スルタン、ナイフなど他の兄弟に比べれば若い方である)。

サルマンはこれまでもアブダッラー後のサウド家の後継者レースの中で将来の国王候補の一人にあげられてきた。しかしそれはあくまでも「次の次」であり「ダークホース」としての後継者候補だった。アブダッラーがステイリ・セブンの長兄ファハド前国王の後を継いで第6代国王になったとき、彼はスルタン国防相を皇太子に指名した。その後、アブダッラーは後継者の選定ルールを明確にするため、アブドゥルアジズ初代国王の息子36人の家系から各一人ずつを選任して「忠誠委員会」を設立した。スルタン皇太子の王位継承を自明とし、スルタン以後の王位継承問題をサウド家全員の合意に委ねようとしたのである¹。

* 図「アブドゥルアジズ初代国王の子息と忠誠委員会メンバー」参照

<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/3-1-3aSonsOfAbdulazizByAge.pdf>

この段階では誰しも年齢的に見てアブダッラーが先に亡くなり、新国王に即位するスルタンが誰を皇太子に選ぶかが問題であると考えた。最右翼はスルタンの実弟でNo.3のナイフであったが、兄弟間での王位のたらい回しに反対するタラール王子(王族富豪アル・ワリード王子の父親)もいる。もしスルタンが国王になれば彼は多少の反対を押し切ってでもナイフを皇太子に指名したであろう。しかしそのナイフが次に国王になった場合、サルマンを皇太子に指名できるかどうかは微妙な問題である。スルタンーナイフーサルマンと三代続けて実の兄弟が王位を継承することに他の王族から異論が出ることは容易に想像できる。またその頃はサルマンもかなりの高齢になっているはずであり、第三世代(現国王の息子達の世代)からも不満の声が出るであろう。

ところが現実には昨年10月、スルタン皇太子がアブダッラー国王よりも先に亡くなり「忠誠委員会」はナイフを皇太子に推薦した。そしてサルマン・リヤド州知事(当時)が国防相に任命されたのである。この時よもやナイフ皇太子がアブダッラー国王よりも先に亡くなるとは誰も思ってもいなかったはずである。何年か後にナイフが国王に即位した時に「忠誠委員会」がサルマンを皇太子に推薦するか否かが問題になったであろう。つまりサルマンは有力な後継者の一人ではあるが、あくまでダークホース的な存在なのである。

そして今回のナイフ皇太子の急死である。結局国王は最も無難なサルマンを皇太子に指名した。

ナイフの死後わずか二日後のことである。この時、後継者選定の「忠誠委員会」が開催されたとの報道は見当たらない。アブダッラー国王を含め王族全員がこのような事態を予測していなかったであろう。こうしてサルマンはわずか8カ月の間にリヤド州知事から国防相、さらに皇太子へと華麗な三段跳びを果たしたのである。彼の皇太子即位はまさに「棚からぼたもち」のタナボタと言っている。

2. サルマンの権勢とその限界

サルマンは1936年生まれ²で今年76歳になる。初代アブドルアジズ国王とステイリ家出身のハッサ妃との間に生まれた7人の男児(通称ステイリ・セブン)の6人目であるが、初代国王の36人の男児の中では25番目の息子となる。

彼はわずか19歳の若さで首都リヤドの市長に任命され、27歳の時(1963年)リヤド州知事となった。前章で述べた通りステイリ・セブンは早くから要職に就いており、長兄のファハドは同じ年に内務大臣、次兄のスルタンも前年に国防・航空大臣に、また三番目の兄ナイフも内務副大臣を経て1975年に内務大臣に就任している。長兄のファハドが内務大臣から皇太子、そして1982年に第5代国王に即位して2005年に亡くなるまで、スルタン、ナイフ及びサルマンは国防、内務、首都の知事と言う枢要なポストを占めて兄を支え続けたのである。

2005年にファハドが亡くなった後もスルタン、ナイフ、サルマンはそれぞれ国防相、内相或いはリヤド州知事の地位を維持し続けた。サルマンのリヤド州知事在任期間は実に半世紀近くにわたり(1963~2011年)、国政に直接関与するのは今回の国防相が初めてである。しかし彼はリヤド州知事の時代も常に兄のファハドやスルタン、ナイフに密着し、王族間のトラブル解決の調停を行うなどサウジアラビア内部で隠然たる実力を発揮してきた。こうしてサルマンは兄達が国王或いは皇太子に上り詰める手助けをしたと言われる。そのため世間ではサルマンを「キング(王)候補と言うよりむしろキング・メーカー」であると評している。

これまでも彼が兄達に密着する様子は再三報道されており、例えば長兄ファハド国王(当時)が心臓病の手術を受け、スイスのジュネーブで療養した時は、長期間リヤドを離れ、またスルタン皇太子(当時)がニューヨークでがんの手術を受け、モロッコで療養した際も知事の実務をなげうって見舞いに駆けつけている。これは「兄弟愛」と言うよりむしろサウジアラビア家内のステイリ・セブンの勢力維持について兄達と相談するためであったと思われる。その意味ではサルマンは知事の公務より一族の権力維持を重視していたと言えそうである。サルマン自身の健康に関しては彼は背骨の手術を受けており(2010年)、また発作にも見舞われ治療後は左腕が少し不自由なようである。

サルマンは3人の女性と結婚し12人の男児がいる。最初の結婚相手は母親と同じステイリ家の出身で息子は5人。長男のファハドは東部州副知事当時の2001年に心臓発作のため46歳の若さで亡くなっており、また翌2002年には三男アハマドも心臓マヒで死んでいる。彼の死因については前年の9.11テロ事件との関連が当時噂されている。父親のサルマンは熱心なイスラム慈善活動家であり、各種の宗教組織に多額の寄付を行うことで有名である。外国への寄付送金はマネーロンダ

リング(資金洗浄)されてイスラム・テロ組織に回るケースが少なくないと言われる。このため米国ではサルマン自身がテロ組織に手を貸しているのではないかと疑う向きもあり、アハマドの死亡が9.11 テロ事件と結び付けられる背景となっている。

*「サルマン家々系図」(<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/3-1-7SalmanFamily.pdf>)参照。

次男スルタンはスペースシャトル・ディスカバリーに搭乗したアラブ圏最初の宇宙飛行士である。彼は現在最高観光委員会(STC)の会長であり、彼の妻は従兄弟のサウド外相の娘である。その他サルマンの息子で官職にあるのは石油省次官のアブドルアジズ及び国防省顧問として父に仕えるムハンマドが知られている。またファイサルはサウジアラビア最大のメディアグループ(SRMG, Saudi Research & Marketing Group)の会長である。アラビア語紙 Sharq Al-Awsat や英字紙 Arab Newsなどを傘下に持つ SRMG はサルマンを社主扱いとして常に彼の一挙手一投足を詳しく報道している。そのことをあからさまに示したのが、先月16日のナイフ皇太子死亡を報じた Arab News の記事である。Arab News は記事の中でナイフ皇太子の後任はサルマンの可能性が高いとはっきりと書いた³が、サウジアラビアのメディアが王族の人事でこれほど断定的に書くことは極めて異例である。余程の裏付けがあったのか、それともサルマン自身の入れ智恵か不明であるが同紙がサルマンのスポークスマン役であることはまぎれもない事実である。但し実際にはサルマン家の SRMG 持ち株比率は10%に過ぎず、最大の株主は王族大富豪であるアルワリードの Kingdom Holding である。今回のことを含めアルワリードとサルマンがどのような関係にあるのかは興味のあるところである。

サルマンの息子達はエリート王族としてそれなりの社会的な地位に就いているが、そこには一つの問題がひそんでいる。と言うのは故スルタン或いは故ナイフがそれぞれ数十年にわたり国防相或いは内務相を努める間に自分たちの息子を副大臣に引き上げたのに対してサルマンの息子達は現在までのところ「それなりの」ポストにしか就いていないことである。半世紀近くリヤド州知事を続けたサルマンならその気になれば息子をリヤド州副知事或いは中央の有力官庁の次官・副大臣ポストに送り込めばはずである(息子のアブドルアジズは石油省次官であるが、石油相はアラムコ・テクノクラートの指定席であり、またもう一人の王族次官ファイサル(トルキ王子の子息)の方が重用されている)。

サルマンがスルタンやナイフのように息子を登用できなかった理由の一つは期待していた長男フアハドが夭逝したためかもしれない。或いはリヤド州知事でありながら兄の腰巾着となってサウド家内部の権力闘争に首を突っ込みすぎたためであろうか。

3.叔父と甥の暗闘の幕開けか？

(図<http://members3.jcom.home.ne.jp/maeda1/3-1-1MinisterAndProminentPrince.pdf> 参照)

サルマンの二人の兄、スルタンとナイフは皇太子になった後も死ぬまで国防大臣或いは内務大臣の職に留まった。スルタンの国防大臣在任期間は49年、ナイフの内務大臣在任期間は37年と言う超長期間であった。その間にスルタンは長男ハリドを国防副大臣にまで引き上げ、またナイフも次男ムハンマドを内相補に据えた。こうしてスルタン、ナイフは国防省と内務省を自分と息子の牙城に

したのである。因みに長兄のファハドもムハンマドを東部州知事に据えている。東部州は油田地帯を抱え、首都リヤド州及び西部のマッカ州と並ぶサウジアラビア三大州の一つである。

これら3人の兄達に比べサルマンは自分の息子達を有力省庁のNo.2ポスト若しくは自分が治めるリヤド州の副知事に登用しなかった(あるいは出来なかった)。彼の息子達はスルタンの長男ハリドやナイフの次男ムハンマドのような次期大臣ポストの最短距離にはいないのである。勿論サルマンが皇太子になったことにより皇太子府の長官に息子の一人を登用することは間違いないであろう(国防省で父親の顧問を務めるムハンマドが最有力候補と目される)。ただサウジアラビアでは皇太子府長官は皇太子の秘書役のような存在であり国政上の力は殆ど無い。

現在の国防省と内務省の勢力図を俯瞰すると一つの共通点が浮かび上がってくる。即ち国防省はサルマン大臣に次ぐNo.2ポストがスルタンの息子であり、また内務省はアハマド大臣に次ぐNo.2がナイフの息子である。つまり大臣とNo.2が叔父と甥の関係なのである。これに対してサルマン新皇太子兼国防相及びアハマド新内相の息子達が父親の健在中にそれなりのポストを要求して猟官運動に精を出すことは間違いないであろう。ステイリ・セブンはこれから第二世代と第三世代、即ち叔父と甥の権力闘争が始まり、同時に第三世代同士、つまり従兄弟同士の権力闘争が繰り広げられようとしているのである。

これまでのサウド家は第二世代の同母・異母兄弟36人の権力闘争であった。しかし既にそのうちの20人が死亡、残る16人も最年長のアブダッラー国王(89歳)を筆頭にその殆どが70歳台の高齢である。同母・異母の兄弟が入り乱れる第二世代の場合、母親が同じ兄弟同士が結束を固めるのは必然の成り行きであり、「ステイリ・セブン」はその象徴とも言うべき存在であった。

しかしステイリ・セブンの子供達は父親同士が実の兄弟であるからと言って連帯感を持つわけではない。例えば国防省の場合、スルタンの息子ハリド副国防相が叔父のサルマン国防相を煙たく感じる方が自然であろう。もしサルマンが自分たちの息子(即ちハリドにとっては従兄弟)を国防省の枢要なポストにつければ厄介なことになることは間違いない。このことは内務省のムハンマド内相補と叔父のアハマド内相についても言えることである。

現在さほど枢要な地位にいないサルマン新国防相の息子達は父の存命中にしかるべきポストを狙っているはずである。「ステイリセブン」の息子達が非ステイリの従兄弟たちよりも優遇され富と名誉を与えられてきたことは事実である。しかし彼らがそれで満足して出世争いから超然とすることは無い。むしろ富があれば更なる名誉(つまり大臣などの高官ポスト)を欲するのが人の常であろう。伯父のスルタン、ナイフそれぞれの皇太子在位期間が短かったことを考えれば、サルマンの息子達が残された時間は少ないと考えたとしても無理は無い。彼らは父親が皇太子の間になんとか自らの立場を固めたいと焦っているのではないだろうか。

サルマンは皇太子即位直前の去る6月7日、国防相としてスペインを訪れている。その時彼は二人の息子ファイサル(SRMG 会長)とムハンマド(父の顧問)を同行し、スペイン国防相との会談に同

席させている⁴。筆者はこのニュースに二つの素朴な疑問を覚えた。一つはなぜ彼がファイサルと言う国防問題と無関係な息子を連れていったのか、と言う疑問であり、もう一つはユーロ危機に揺れるスペインと国防の話をすることが本当に必要だったのかと言う疑問である。うがった見方をすれば今回の会談はスペイン製武器を購入するための交渉であり、その場合多額のキック・バック(見返りの賄賂)がサルマン一族に流れるという図式である。スルタンとその息子達(バンドル元駐米大使もその一人である)が英米との武器取引で莫大なキック・バックを手にしたことは知らぬ人のない事実である。サルマンの息子達も同じことを狙っていると考えてもおかしくは無い。但し、スルタンの息子ハリド副大臣がそれを黙って見過ごすとも思えない。

叔父と甥、そして従兄弟同士の暗闘は始まったばかりである。

(完)

本稿に関するコメント、ご意見をお聞かせください。

前田 高行 〒183-0027 東京都府中市本町 2-31-13-601
Tel/Fax; 042-360-1284, 携帯; 090-9157-3642
E-mail; maeda1@jcom.home.ne.jp

¹ サウド家の王位継承問題については下記レポート参照。

(1)2011.11月「振り出しに戻ったサウド家の後継者問題」

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0207SalmanDefenceMinister.pdf>

(2)2011.11月「サウジアラビア皇太子にナイフ内相」

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0204SaudiCrownPrinceNaif.pdf>

(3)2011.10月「サウジアラビア皇太子の死去と後継者選定について」

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0203SultanDeathNews.pdf>

(4)2011.9月「世代交代に備えるサウド家御三家」

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0197SaudThreeFamilies.pdf>

(5)2010.11月「迫るサウド家の世代交代」

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0162SaudRoyalFamily2010.pdf>

(6)2010.3月「GCC諸国の王家・サウジアラビア・サウド家」

<http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/0138RulingHouseAlSaud.pdf>

(7)2009.6月「ナイフ内相の第二副首相就任が意味するもの」

[http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/A36%202nd%20deputy%20PM\(Naif\).pdf](http://members3.jcom.home.ne.jp/3632asdm/A36%202nd%20deputy%20PM(Naif).pdf)

² Wikipediaでは1935年12月31日生まれとされている。

http://en.wikipedia.org/wiki/Salman_bin_Abdulaziz_Al_Saud

³ Arab News on 2012/6/17, 'Crown Prince Naif has died'

<http://www.arabnews.com/saudi-arabia/crown-prince-naif-has-died>

⁴ Arab News on 2012/7/15, 'Spanish visit fruitful: Prince Salman'

<http://www.arabnews.com/saudi-arabia/spanish-visit-fruitful-prince-salman>